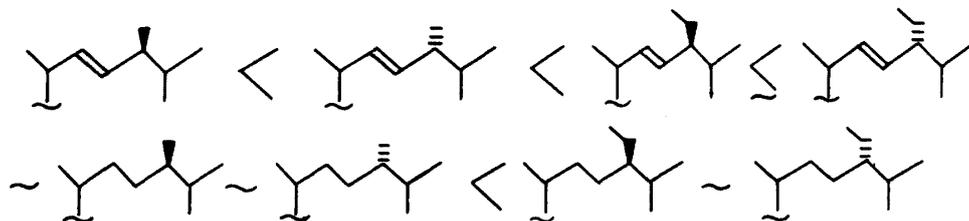


Title	(2-Thiazolyl) thiourea誘導体のパラジウムキレートの構造について
Sub Title	
Author	与田, 玲子(Yoda, Reiko) 山本, 有一(Yamamoto, Yuichi) 松島, 美一(Matsushima, Yoshikazu) 藤江, 忠雄(Fujie, Tadao) 飯高, 洋一(Itaka, Yoichi)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1984
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.29 (1984.) ,p.89- 90
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000029-0091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



* 東京工業大学理学部

(2-Thiazolyl)thiourea 誘導体のパラジウムキレートの構造について

与田玲子, (故)山本有一, 松島美一, 藤江忠雄, 飯高洋一*

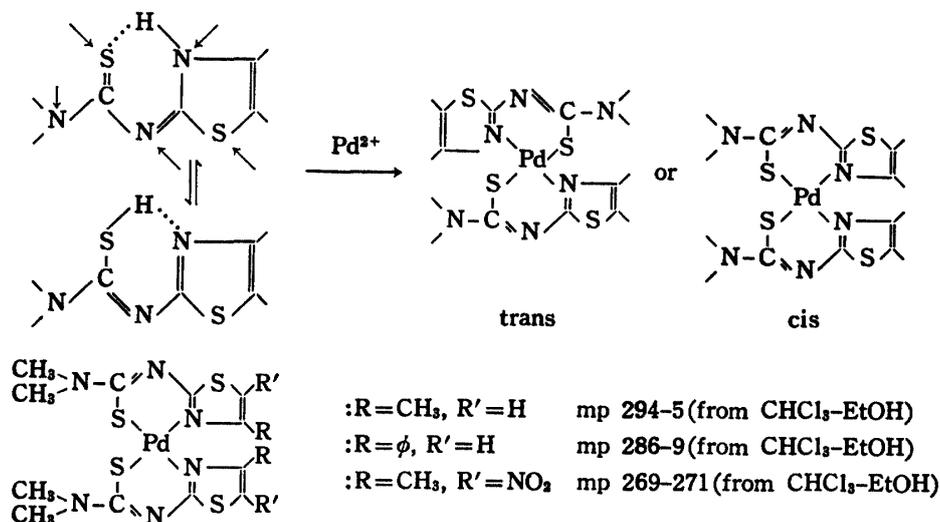
〔日本薬学会 第104年会 (1984年3月, 仙台) で発表〕

(2-Thiazolyl)thiourea 誘導体のパラジウムキレートを作成し, その配位構造を研究した。

キレートの合成: パラジウムの水溶液とメタノールに溶かした配位子の溶液をモル比1:2で混合し, クロロホルム抽出した。クロロホルム相を硫酸マグネシウムで乾燥, 溶媒留去後, シリカゲルクロマトグラフィーにより精製し, 再結晶した。

元素分析値はパラジウム:配位子=1:2の組成比の計算値に一致し, マススペクトルからも1:2の組成比でキレートを作成していることがわかった。キレートの赤外線吸収スペクトルにおいて配位子のNH吸収帯が消失していた。

これらの配位子は五つの孤立電子対をもち, いずれかが配位に関与し, 互変異性としてチアゾリン型とチオール型が考えられる。これに関して, N,N-dimethyl-N'-(4-methyl-2-thiazolyl)thiourea のメチル体を合成し, UVスペクトルを比較し, その結果チアゾリン型をとっていることが推定された。組成比1:2であることから, トランス, シスの幾何異性がある。対称性また分子モデルより分子の立体障害を考えるとチアゾール環がトランス位置にある方が安定であると予想さ



れた。

X線結晶構造解析の結果、パラジウムと配位子がモル比 1:2 でチアゾール環 N とチオウレアの S と配位し、チオウレアの S がシス位のパラジウム四配位構造をとり、チアゾール環が対称であった。

* 東京大学薬学部

(2-Thiazolyl)thiourea 体のニトロ化 (その 2)

与田玲子, 岡田智子, (故)山本有一, 松島美一, 飯高洋一*

[日本薬学会 第 104 年会 (1984年 3 月, 仙台) で発表]

1-Monoalkyl-3-(2-thiazolyl)urea および thiourea の硫硝酸によるニトロ化によって thiazole 5 位がニトロ化され、さらに N 位にニトロ基が導入されることおよび (2-thiazolyl)thiourea の同様の条件下におけるニトロ化では対応する 5-nitrothiazolyl 化合物の他、淡黄色針状晶の新物質

